

平成31年度
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
 成果報告書

団 体 名	ふれあいファシリティズ	
施 設 名	サラマンカホール	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業	
内定額(総額)	10,724	(千円)
公演事業	10,724	(千円)
人材養成事業	0	(千円)
普及啓発事業	0	(千円)

1. 事業概要

(1) 平成31年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	仲道郁代 ショパン鍵盤のミステリー 第1回「天才誕生～青年期」	2019年4月13日	[出演者]仲道郁代(Pf) [演奏曲]ショパン:華麗なる大ワルツ Op. 18、アンダンテ・スピアナートと華麗なる大ポロネーズ Op. 22、バラード第1番 Op. 22 他	目標値	500
		サラマンカホール		実績値	673
2	ジャコバン国際ピアノ音楽祭 2019in岐阜	2019年5月19日	[出演者]三浦友理枝、近藤嘉宏、高橋多佳子、フィリップ・レオジェ、セリア・オネット・ベンザイド(Pf) [演奏曲]ラヴェル:亡き王女のためのパヴァーヌ、古風なメヌエット 他	目標値	880
		サラマンカホール		実績値	649
3	サラマンカホール 開館25周年記念 第九特別公演	2019年6月15日	申請取り下げ	目標値	420
		サラマンカホール		実績値	...
4	鈴木優人&バッハ・コレギウム・ジャパン バッハ:チェンバロ協奏曲演奏会	2019年7月21日	[出演者]鈴木優人(指揮、チェンバロ、オルガン)、若松夏美(Vn)、アンドレアス・ベーレン(rec)、バッハ・コレギウム・ジャパン [演奏曲]バッハ:チェンバロ協奏曲第3、4、6、7番 他	目標値	420
		サラマンカホール		実績値	589
5	アニエス・ルテステュ 「Le Do(s) transfiguré」	2019年10月6日	申請取り下げ	目標値	420
		サラマンカホール		実績値	...
6	サラマンカホール オペラ「子どもと魔法」	2019年12月7日	[出演者]倉知竜也(指揮)、重左恵里・池原陽子(Pf)、サラマンカホールオペラ合唱団・少年少女合唱団 他 [演奏曲]ラヴェル:オペラ「子どもと魔法」2台ピアノ版	目標値	600
		サラマンカホール		実績値	407
7	サラマンカ少年少女合唱団 第7回定期演奏会 ミュージカル 「音どろぼうと凸凹探偵団」	中止	[出演者]サラマンカ少年少女合唱団、谷川賢作(Pf)、岩崎有子(指揮)、岩崎愛子(Perc)、虫賀太一(シンセサイザー) 他 [演奏曲]後藤卓也台本・演出:ミュージカル「音どろぼうと凸凹探偵団」	目標値	600
		サラマンカホール		実績値	...
				目標値	
				実績値	

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p> <p>[事業番号 1] 芸術文化へ知的好奇心旺盛な東海エリア在住のお客様からの期待に応え、従来のピアノリサイタル形式からは一歩飛躍した形で開催。舞台スクリーンに画像・楽譜等の資料約 100 枚を順次投影、曲間ではピアニスト本人がショパンの生涯や作品に関して説明。公演時間の約 1/3 をトークに充て、演奏鑑賞だけでは得られ難い、欧州文化・クラシック音楽史に関する見識向上を期待した演出で、予定通り事業を遂行した。</p> <p>[事業番号 2] 現地フランスで 3 週間に渡り開かれている音楽祭の精神をそのままにして、一日で凝縮開催。3 回目の今回もピアノに纏わる講座、ピアノ愛好家によるロビーコンサート、海外アーティスト 2 名を含む 5 名の本公演、地元仏料理店とコラボしフード、ドリンク提供等多様な内容を適切に振り分け、予定通り事業を遂行した。</p> <p>[事業番号 4] 前年にバッハ・コレギウム・ジャパンの首席指揮者に就任した鈴木優人氏による、J. S. バッハ：チェンバロ協奏曲全曲録音という意欲的プロジェクト。この録音メンバーで、バッハを知り尽くした精鋭たちによる演奏は日本で聴ける数少ない本物のバッハ作品公演であり、大変質の高い演奏を提供できた。また、公演に先立ち古楽講座を設けたことで、出演者自身による貴重な話を聞くことができ、当初の予定通りの事業を遂行した。</p> <p>[事業番号 6] オペラ事業には 2012 年から毎年取り組んでおり、18 年からは本格的にオーディションによる出演者選考、ホール事業スタッフの制作体制を整えている。今回はこれまでにない多くのソリスト・合唱をオーディションで募集。21 の出演者に対し 26 名応募、合唱も 8 名応募があり、当ホール少年少女合唱団からも選抜。オペラ事業制作への信頼を深め、出演した子どもたちにとっても大きな体験となった。仏語原語上演では音楽との親和性が観客に受け入れられ、日本語字幕を加え、内容も一層深い理解を得られた。オケピのない舞台上で豊かな表現を求めて、2 台ピアノ版で上演したことも成果である。ホールオペラならではのシンプルな演出、音楽的に豊かな空間を生かす上演で、事業は成功裡に完了した。</p> <p>[事業番号 7] 当合唱団は 7 年前にホール専属ジュニア合唱団として発足。子供たちが等身大の自分達の生活や気分を反映できるような作品を作ろうと、台本・作曲を依頼。2018 年より台本演出・後藤卓也と作曲・谷川賢作との話し合いを重ね、19 年夏にシノプシスと最初の詩が完成し作曲、12 月末から稽古が始まった。2・3 の団員以外は自分の名前が役名で、保護者も保護者役で出演する 2 重の意味でのオリジナル作品。20 年 3 月、新型コロナウイルス感染防止のため稽古が出来なくなり 4 月 18 日に延期、更に 8 月 15 日への再延期を判断。後日緊急事態宣言は解除されたものの稽古の見通しが立たないため、その後公演一部中止を決定した。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <p>[事業番号 1] 本公演後、ピアニストを目指す音高生・音大生計 4 名を対象に「仲道郁代のスーパーピアノレッスン」を開催。公演鑑賞者限定で無料聴講可能な公開レッスンを行った。このスタイルは今後 2 年、各年 1 回行われることが決定、青少年への音楽教育支援事業として継続する。助成により、日本を代表するピアニストのレッスンを非常に安価に受講・聴講出来る機会を提供することが出来ている。</p> <p>[事業番号 2] 年に一度、聴いて、食べて一日過ごせるイベントとして、しかも海外アーティストを招いて質の高い公演を目指すにはチケット単価を上げざるを得ないが、助成によって比較的リーズナブルな価格設定をすることができている。これによりカジュアルなイメージとなり、食文化と絡めることも相まって、リピーターや新しい客層の獲得にも繋がっている。</p> <p>[事業番号 4] 小編成とは言え、遠方から合奏団を招くには相応の費用が必要となり、チケット価格にも影響が出る。また、バロック音楽というジャンルの公演を地方で企画することは集客的に難しいのが現実である。しかしながら、助成を受けることでチケット単価を抑えることができ、優れた演奏を多くの聴衆に聴いていただくことができた。</p> <p>[事業番号 6] 小規模でオーケストラを使わないオペラとは言え、オーディション、稽古、仕込等の経費は他の事業以上にチケット収益ではその予算は賄えない。しかも 20 日間に及ぶ稽古を少ない謝金でお願いしていることで、なんとか成立している。助成なくしてオペラは継続していけない。今回は 2 台ピアノへの編曲、仏語指導、日本語字幕作成、2 台ピアノ用スペースを有効に使うための映像機器等の経費も多くかかった。また助成により映像収録ができ、この動画を新型コロナウイルス感染防止によるコンサート中止期間の「発信」として無料公開した。</p> <p>[事業番号 7] 作家、作曲家が台本制作、作曲にかける 1 年以上の作業は、助成なくしてはできない。今回は、現代の子どもたちの生活を反映した作品で、音楽的な成果以外に、子どもたちが自分たちの内面に目を向けることのできる作品で、社会的にも助成の価値がある。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

[事業番号 1]

当日の来場者アンケートから判明している情報だけでも、愛知県・三重県・大阪府・京都府・東京都からの来場があった。人気作曲家ランキング上位に君臨するショパンと、NHK「らららクラシック」を始めとする数々のメディア出演歴で全国的な知名度とファンを獲得している女性ピアニストとの組み合わせにより、当公演情報が各地域・各方面に伝わったことが伺えた。当初掲げた「県内および東海エリアだけでなく、全国の音楽ファンにも当ホールの存在を PR」という目標を達成した。

[事業番号 2]

“ピアノ”をキーワードに一日楽しめるイベントを目標に据えていたが、内外のアーティストのそれぞれ持ち味を生かしたプログラミングによって、また、一般参加のピアノ・リレー、本格フレンチとの融合によって、来場者にとって充実した一日となったと確信している。

[事業番号 4]

古楽の権威であり、メディアへの露出も積極的な鈴木優人氏率いるバッハ・コレギウム・ジャパンを招くことができたことは、主催者として喜ばしいだけでなく、約 83%の集客ができたことはこの種の公演としては大成功であり、ホールの特性を生かした公演として十分に目標を達したといえる。

[事業番号 6]

・応募者数

応募者数は、22 のキャストの募集に 26 名の応募があり、目標を達成した。すべての役への応募があった。

合唱は男声の応募が少なかったが、1 名の声楽家に依頼して充足できた。

当ホール少年少女合唱団からは、小学生～高校生までの計 6 名から合唱への参加を得られ、目標を達成できた。2 台ピアノ版の初演ができた。

・原語上演

フランス語の指導が十分にでき、フランス語の原語上演を行うことが出来た。また日本語幕への共感も大きかった。

・稽古

25 日間以上の稽古を行え、十分な習練ができた。

・観客

演出上着席を不可にした 250 席を除く 450 席中、販売が 423 枚、着券 384 名。目標を達成した。

[事業番号 7]

作品制作は完成しているが、公演一部中止により目標は達成していない。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

事業期間について

[事業番号 1]

入場者数は 673 名、95%の入場率を記録。準備・事業期間共に、適切な計画で遂行した。

[事業番号 2]

目標値の 73%という来場者であったが、人の流れが途絶えるという印象はなく、前 2 日間のアウトリーチコンサートを含め計画通りに進行することができた。

[事業番号 4]

集客率 83%。ピリオド楽器による本格的なバロック音楽をお聴きいただくという目標に対して、高水準の演奏を多くの方にお聴きいただけたのはもちろん、“古楽”についての予備知識を得る機会を作るために、出演者による講座を開催したことは、聴衆にとっては大変充実した成果となり、計画通りのスケジュールで進めることができた。

[事業番号 6]

来場者は 85.3%。準備期間はオーディション募集から 9 か月間。稽古日数 27 日間で予定通り進んだ。

[事業番号 7]

公演一部中止。

事業費について

[事業番号 1]

入場者の計画は 500 人（入場率 70.6%）であったが、実績は有料入場者数 665 人（入場率 94%）であり、入場料収入が 579 千円の増収となった。一方で事業経費は、チケット発売日を前年度の 1 月開始としたため、チラシ、ポスター等広報関係費が前年度に集中。よって、利益率が大幅に向上した。

[事業番号 2]

入場率については、前年度実績が約 52%だったので、約 60%で計画、実績は 46%。よってチケット収入が対計画比約 50 万円減。事業経費では、ツアー箇所が増えたため渡航費負担が軽減され対計画比約 67 万円減となり、高山市へのアウトリーチも計画通り実施できた。

[事業番号 4]

チケット収入は対計画比約 53 万円増、事業経費はチラシ印刷費の除外などで対計画比約 66 万円減。よって収益率が対計画比約 30 ポイント増。サラマンカメイト会員をはじめ古楽ファンの集客が計画以上にできた。

[事業番号 6]

原語上演であったことで、多くのオペラファンの関心を集め高い評価を得たが、それゆえ入場者数が対計画比約 68%にとどまり、チケット収入が約 35 万円減。事業経費は計画通りで、ホール制作手腕の向上が図れた。

[事業番号 7]

新型コロナウイルスの蔓延で、上演を断念。事業としては、本番に向け活動を続け、一部中止という結果になった。チケット販売も序盤は一般売りが中心のため 58 枚にとどまる。事業経費も対計画比約 69%。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

[事業番号 1]

来場者アンケートでの公演評価は、91%が「よかった」「まあよかった」と回答。岐阜県の主要文化拠点として、県民の満足度を満たすことが出来た事業となった。

[事業番号 2]

フランスから招聘したピアニスト2名のみによる巡回公演を、別途企画。アウトリーチ事業として、「ジャコバン国際ピアノ音楽祭 in 高山」および「ジャコバン国際ピアノ音楽祭 in クララザール」の新規2事業を立ち上げた。岐阜県の主要文化拠点として、ピアノという楽器を通じ県内他地域の芸術・文化の発展に寄与し、音楽・歴史・文化という幅広い視座から地方再生を牽引する国際音楽祭への一歩が踏み出せる事業となった。

[事業番号 4]

岐阜県内最大の音楽専用ホールとして音楽文化を発信して25年。高水準でありながらも、本公演のような地方都市では開催の難しい公演を積極的に開催し、多くの聴衆に紹介できたことは、当ホールの機能を最大限に活用できたものといえる。

[事業番号 6]

演出家に乃村健一を起用しシンプルな舞台設定、演出でコンサートホールを有効に使用できた。指揮の倉知竜也はピアノ2台版を編曲、さらに響きを生かす演奏ができた。フランス語指導に相可佐代子を配し、このオペラはわが国でのフランス語の上演は少なく、あえて取り組んだ。ホール専属のジュニア合唱団である「サラマンカホール少年少女合唱団」の協力を得られた。オーケストラピットがない、照明設備がない、フライズや袖がないなどオペラにふさわしくない空間を、シンプルな舞台設定、演出でコンサートホールを生かすことができた。コンサートホールの響きを生かすことができた。県的な音楽の中心施設であるサラマンカホールとして、定評のある作品を原語で高い水準で上演できた。

[事業番号 7]

公演一部中止にはなったが、現代の子どもたちの生活や気分をリアルに描き、ジャズやラップなど若い世代の指示を得られる音楽を使った作品の完成は大きい。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

[事業番号 1]

「仲道郁代スーパーピアノレッスン」受講生の内の1人、亀井聖矢（愛知県一宮市出身）が、受講半年後のには「第88回日本音楽コンクール」にて第1位および聴衆賞を獲得。結果として、東海エリアからの人材輩出、文化芸術発展に寄与した。

[事業番号 2]

アマチュア愛好家が客前でその腕前を披露するピアノ・リレー、日本では無名ながら、欧米の第一線で活躍するアーティストの紹介など、地域の音楽文化向上の一役を担っているものと確信している。

[事業番号 4]

バッハなど、バロック時代のプログラムを採り上げる公演は少なくないが、ピリオド楽器による本格的な演奏が聴けることは大変貴重であり、そういった機会を作ることができたことは、実演文化の進行、文化芸術の発展につながるものとする。

[事業番号 6]

ホールオペラの発信は東海地域でも行っていない。また県内ではオペラ公演も極めて少ない。こういう状況でのオペラ公演の意義、ホールの果たした貢献は大きい。

出演者の多くは岐阜県をはじめ東海出身、在住の音楽家、愛好家で地域の文化芸術の発展に帰するところは大きい。特に子どもたちの参加も未来につながる成果である。

[事業番号 7]

県内のジュニア合唱団のミュージカルなどの音楽劇は、内外の童話や昔話を脚色した短いものがほとんどで、どちらかというと「習作的」なもので、真にジュニアのための新たな作品制作の必要性を痛感していた。

議論の上で書かれた上演時間1時間40分の創作台本に、クラシック曲（第九）から、ジャズのリズムを使った曲、ラップといった多様な音楽で構成され、現代の子どもをリアルに描いた作品は地域のジュニア合唱団に大きなインパクトを与えられる。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

ホールとして掲げている4つのミッション（①優れた音楽文化の提供、②芸術文化の創造発信、③未来を担う青少年育成、④心豊かな社会のための文化拠点）を核として、組織として均等に各項目を遂行できるよう、年度内事業を企画した。

そして、各事業終了後には券売・動員数・収支等の数値的結果、及び来場者アンケート等のソフト面など多角的な面から丁寧な検証を行うことで、次年度事業に向けての改善策を検討してきた。

各事業を通じて、組織活動が持続的に発展したと認められる理由は以下の通りである。

[事業番号 1]

全3回完結シリーズの初回開催で、今後残り2公演が行われる。シリーズ公演で、かつ公開レッスンも毎回予定しているため、今後も定期的な動員を見込んでいる。（→ミッション①③が持続的に発展。）

[事業番号 2]

今回で3回目の開催となったこのイベントでは、海外からのアーティスト、一般参加のピアノ・リレー、本格的フレンチ料理の提供と、それぞれに期待する“常連”も多く、回を追って更なる発展を見込んでいる。（→ミッション④に関連し、食文化交流・国際交流をも兼ねる総合的なイベントとして持続的に発展。）

[事業番号 4]

古楽のスペシャリストを迎え、機会の少ないロマン派以前の音楽を採り上げることができ、4か月後には更に時代をさかのぼる中世・ルネサンスを得意とするグループを迎えるに至るなど、このジャンルに興味のある聴衆に本公演を通してアピールすることができた。今後も、利用が限られるパイプオルガンやチェンバロを用いた公演の開催にむすび付くと想定している。（→ミッション①が持続的に発展。）

[事業番号 6]

オーディションでの出演者募集が事業持続に関わる今後の課題であり、地域の音楽家、合唱愛好者のゆるやかな組織の形成が必要となる。また、演出家、指揮者、ピアニストたちはこれまでのつながりを元にその都度協議し契約を交わしているが、確たる取り決めがないため、芸術的な発展、制作的な継続した安定感には欠けている。これら音楽家、メインスタッフとの有機的で持続的な関係を作るための改善策を検討している。（ミッション②③が持続的に発展。）

[事業番号 7]

公演一部中止の判断となったが、同演目は2021年3月27日、同合唱団の第8回定期演奏会にて再び上演を試みることが決定している。合唱はコロナウイルス感染症防止により集団練習が出来ない現状であるが、ZOOMを始めとするビデオコミュニケーションサービスを活用するなど、オンライン練習にも力を入れ始めた。残り約10カ月、本番まで子どもたちのモチベーションを維持し続けるための様々な対処を検討し、実行する予定である。（ミッション③④が持続的に発展。）